

京王電鉄バス株式会社 様



<京王電鉄バスグループについて>

京王電鉄バス、京王バス東、京王バス南、京王バス中央、京王バス小金井の5社からなる京王電鉄グループの中核バス会社。京王電鉄沿線地域の一般路線バス、京王線沿線から各方面への高速バス、空港連絡バス、深夜急行バス等を運行する他、貸切バス、バスツアー等の事業も行う。「人にやさしい京王バス」をキャッチコピーに「安全・快適」をはじめとする良質なサービスを提供し、お客様から信頼・満足を得られる企業を目指しています。車両数 872 両、従業員数 1836 名（いずれも 2015 年 3 月 31 日時点、子会社含む）。本社東京都府中市。

「pcAnywhere からの乗り換えは、常駐接続とワンタイム接続が可能で、かつ、双方向で画面共有でき、さらにライセンス体系もお得な ISL Online を選びました」

京王電鉄バス株式会社 管理部システム業務推進担当 課長補佐 松尾氏 同主任 田中氏

京王電鉄バスグループでは、グループ 5 社の PC サポートおよびサーバー保守に使用してきたリモートコントロールツール「pcAnywhere」の販売・サポート終了に対応するため、2014 年、ISL Online への乗り換えを決めました。管理部システム業務推進担当 課長補佐の松尾氏（左から 3 人目）と同主任の田中氏（左から 2 人目）に、ISL Online の導入経緯と評価を伺いました。



京王バスオリジナルキャラクター
ピンボン(左)とパンボン(右)

グループ 5 社 10 拠点以上の 約 200 台の PC サポートおよび サーバーメンテナンスに、 ISL Online を導入

— ISL Online の導入状況を教えてください。

当社では ISL Online のクラウドライセンス 3 本を、5 年一括契約で導入しました。

— ISL Online の用途は。

グループ 5 社*1、10 拠点以上(営業所、バスターミナル、整備工場等)のユーザーが使用するパソコン約 200 台のリモートサポート、およびサーバーのリモートメンテナンスです。

*1 京王電鉄バス、京王バス東、京王バス南、京王バス中央、京王バス小金井

pcAnywhere の販売終了が 決まり、乗り換え先を選定し始めた

— ISL Online 導入前は、どのリモートコントロールツールを使用していましたか。

ISL Online を導入する前は、pcAnywhere を約 10 年にわたり使用していました。

保守契約も結んでいました。

— リモートコントロールツールの乗り換えを決めたきっかけは。

pcAnywhere の販売終了が決まったことが契機になりました。いずれサポートも終了すると判断



「無償ツールも検討しましたが、当社の要件を満たす製品は見つかりませんでした」(システム業務推進担当 課長補佐 松尾氏)

し、乗り換え先のリモートコントロールツールを選定し始めました。

— 乗り換え先として、まずどのようなリモートコントロールツールを検討しましたか。

Windows の標準アプリケーションやサードパーティー製の無償ツールを検討しましたが、法人が無償で使える製品で、当社におけるリモートサポートやリモートメンテナンスに使える製品は見つかりませんでした。そこで、有償ツールの検討に移りました。

「常駐型接続が可能」で 「ライセンスが同時接続数ベース」 なのは ISL Online だけだった

— 有償リモートコントロールツールを、どのような基準で選定しましたか。

主に次の 5 つの基準で選定しました。

基準 1. 「リモート接続先のデスクトップ画面を共有して操作できるか」

基準 2. 「常駐接続が可能で、かつ安価に導入できるか」

基準 3. 「Windows 標準の GUI 環境「Aero (エアロ)」に対応するか」

基準 4. 「リモート操作のログを確実に残せるか」

基準 5. 「安定して稼働するか」

— 順々に伺います。基準 1. 「リモート接続先のデスクトップ画面を共有して操作できるか」とは。

「オペレーターからの実演指導」と「ユーザーからの状況説明」ができるかということです。

ISL Online は、この基準を満たしていました。

— 基準 2. 「常駐接続が可能で、かつ安価に導入できるか」とは。

他社製リモートコントロールツールの中には、常駐型のリモート接続ができない製品がありました。常駐型のリモート接続ができない場合、リモートサポートのたびに、ユーザー側からの接続操作が必要になります。pcAnywhere と運用が変わらないように、常駐型のリモート接続ができない製品は候補から外しました。

また、有償リモートコントロールツールには、「インストールする端末の台数」に応じて価格が決まるものと、「同時に接続できる数」に応じて価格が決まるものがありました。当社の場合、たとえば社内システムの開発過程で、社内を設置された実機に、開発会社からリモートで接続してもらいたい場面もできます。「インストールする端末の台数」に応じたライセンス体系ですと、こうした場面で、ライセンスを取得していない端末に接続してもらうことができません。

ISL Online は、「インストールする端末の台数」

